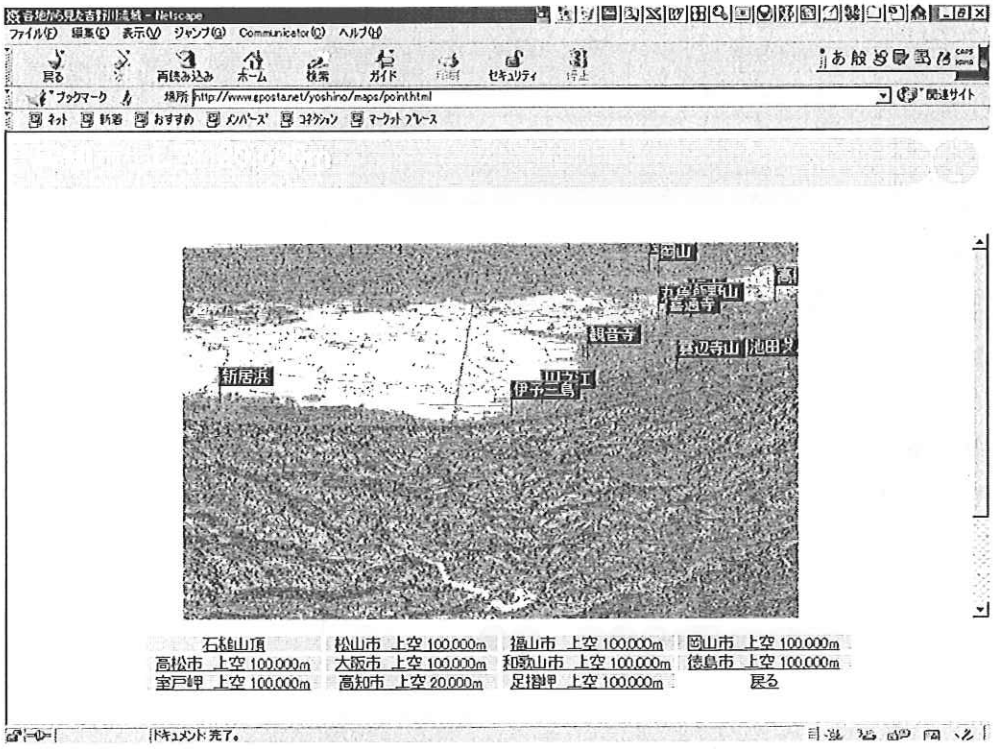
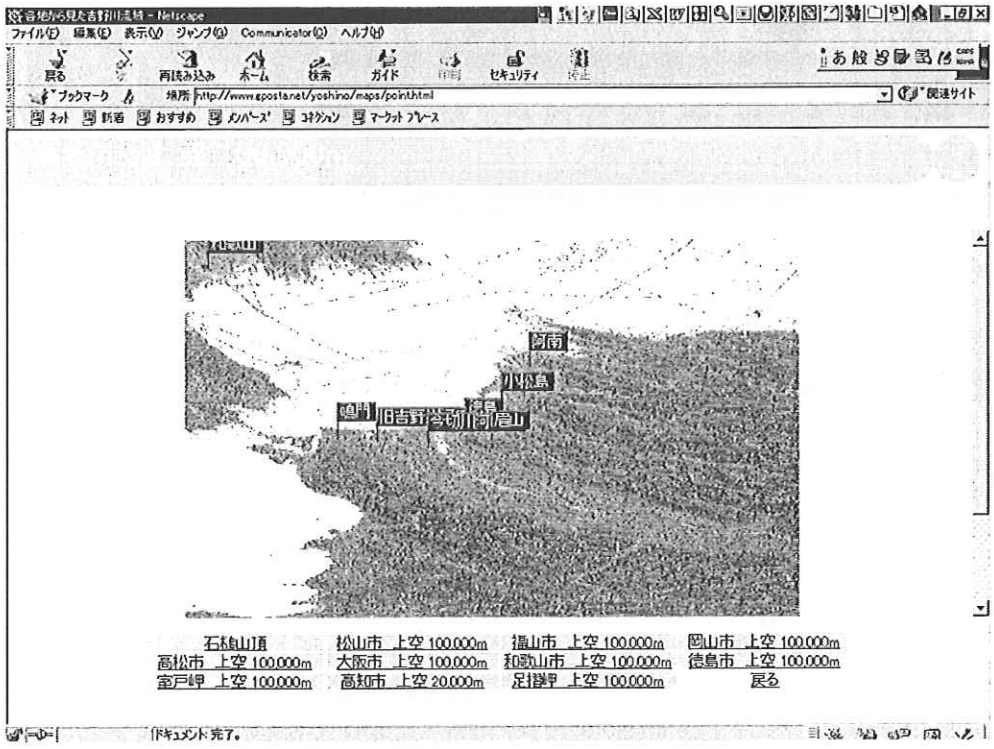
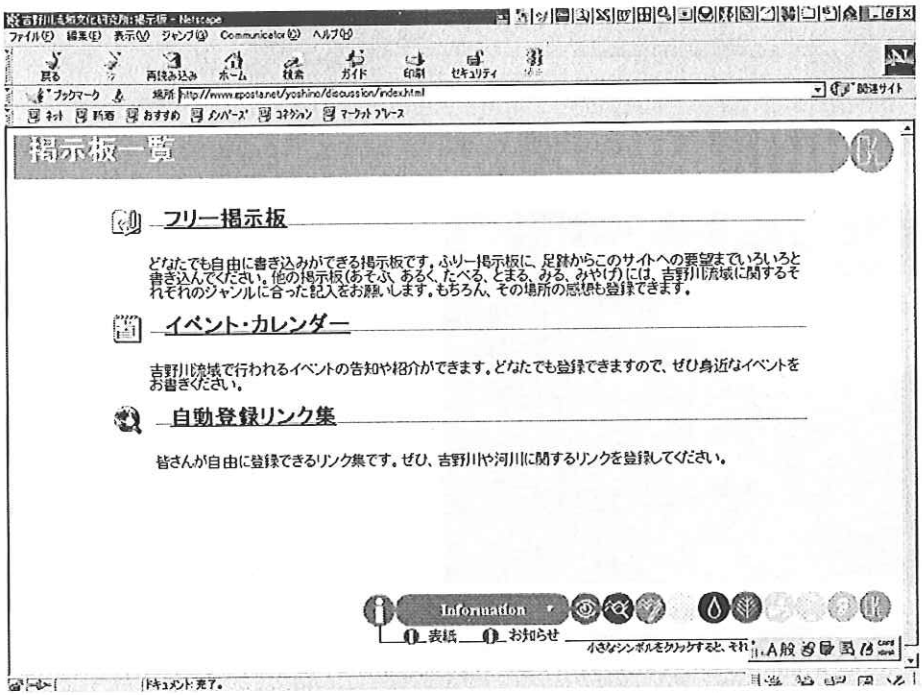
高知市上空

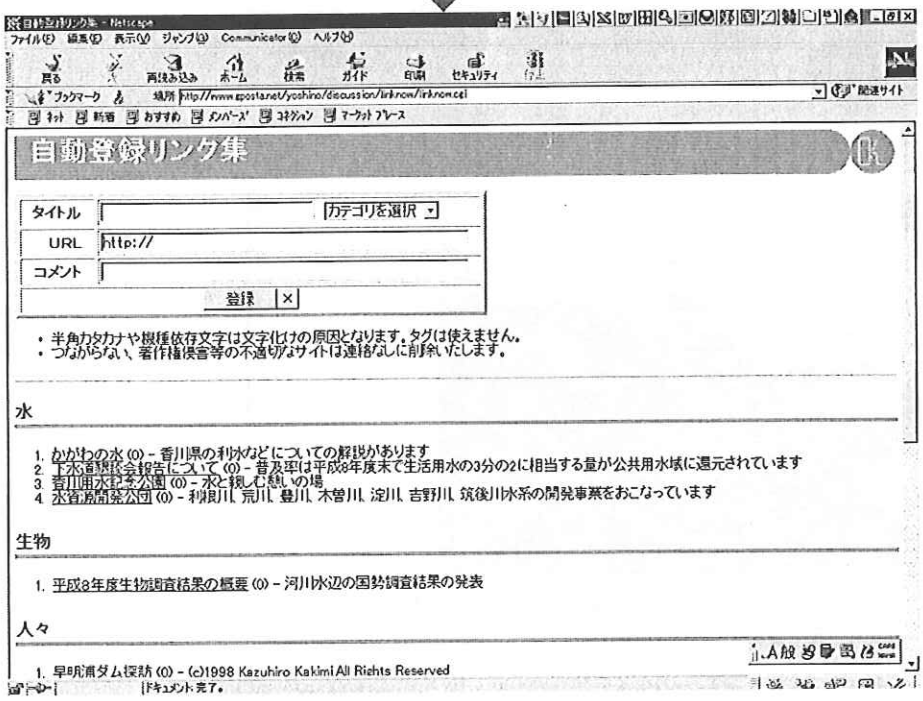

http://www.epostanet/yoshino/maps/pointht.html
新居浜
観音寺
石鎚山頂
高松市 上空 100,000m
室戸岬 上空 100,000m
松山市 上空 100,000m
大阪市 上空 100,000m
高知市 上空 20,000m
福山市 上空 100,000m
和歌山市 上空 100,000m
足摺岬 上空 100,000m
岡山市 上空 100,000m
徳島市 上空 100,000m
戻る

高松市上空

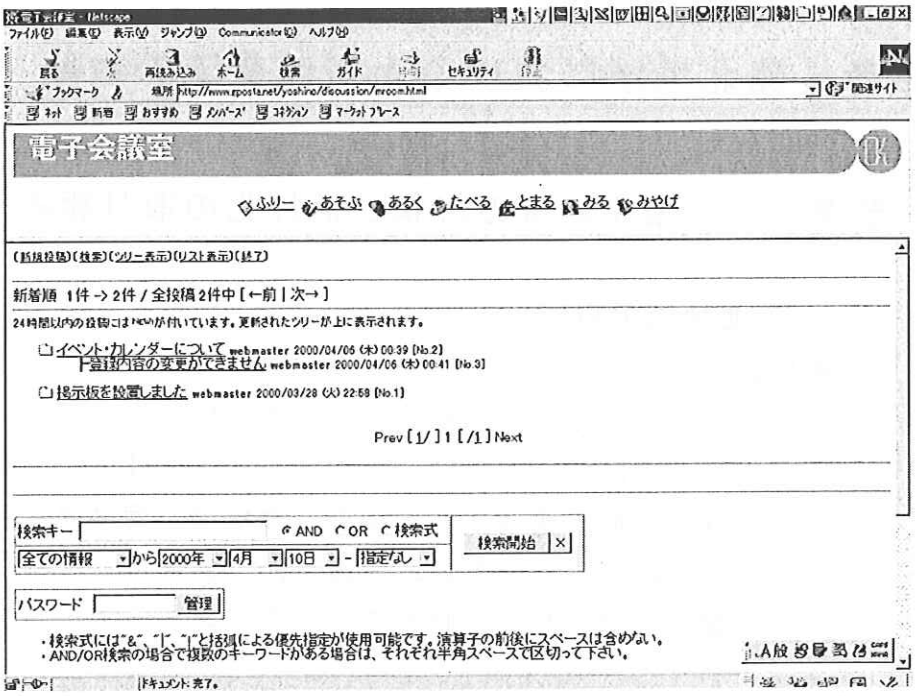

http://www.epostanet/yoshino/maps/pointht.html
新南
川島
徳島
旧吉野川
石鎚山頂
高松市 上空 100,000m
室戸岬 上空 100,000m
松山市 上空 100,000m
大阪市 上空 100,000m
高知市 上空 20,000m
福山市 上空 100,000m
和歌山市 上空 100,000m
足摺岬 上空 100,000m
岡山市 上空 100,000m
徳島市 上空 100,000m
戻る

4階フロアの詳細


掲示板一覧
フリー掲示板
どなたでも自由に書き込みができる掲示板です。ふりー掲示板に、足跡からこのサイトへの要望までいろいろと書き込んでください。他の掲示板(あそぶ、あるく、たべる、とまる、みる、みやげ)には、吉野川流域に関するそれぞれのジャンルに合った記入をお願いします。もちろん、その場所の感想も登録できます。
イベント・カレンダー
吉野川流域で行われるイベントの告知や紹介ができます。どなたでも登録できますので、ぜひ身近なイベントをお書きください。
自動登録リンク集
皆さんが自由に登録できるリンク集です。ぜひ、吉野川や河川に関するリンクを登録してください。
Information
表紙
お知らせ

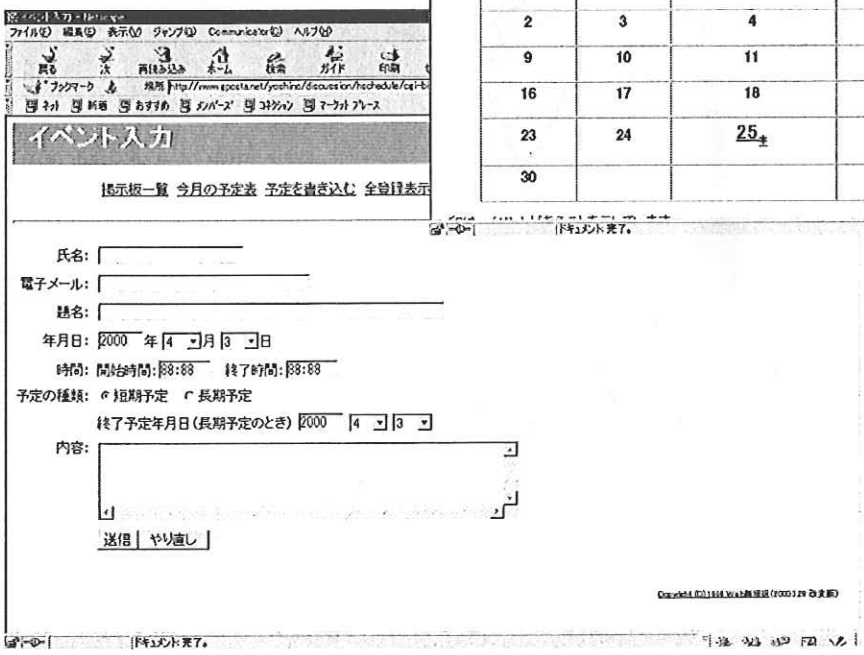

自動登録リンク集
タイトル
カテゴリを選択
URL
http://
コメント
登録
・半角カタカナや機種依存文字は文字化けの原因となります。タグは使えません。
・つながらない、著作権侵害等の不適切なサイトは連絡なしに削除いたします。
水
1. かがわの水 (0) - 香川県の利水などについての解説があります
2. 下水道懇談会報告について (0) - 普及率は平成8年度末で生活用水の3分の2に相当する量が公共用水域に還元されています
3. 香川用水記念公園 (0) - 水と親しむ憩いの場
4. 水資源開発公団 (0) - 利根川、荒川、豊川、木曽川、淀川、吉野川、筑後川水系の開発事業をおこなっています
生物
1. 平成8年度生物調査結果の概要 (0) - 河川水辺の国勢調査結果の発表
人々
1. 早明浦ダム探訪 (0) - (c)1998 Kazuhiro Kakimi All Rights Reserved

上下流交流の地理的・時間的制約を解消する方法として、ホームページ上に電子会議室のフォーマットを提案した。



吉野川では、様々な上下流交流が取り組まれている。

これらの情報をホームページのカレンダーで一元化できるようなフォーマットを提案した。



参考．嶺北地域における上下流交流の取組

参考－１．嶺北地域の現状と活性化の取り組み

１）嶺北地域の概況

◆位置

嶺北地域は、高知県の北部、四国のほぼ中央部に位置し、東から大豊町・本山町・土佐町・大川村・本川村の３町２村からなる地域です。

地域の北側に連なる四国山脈は愛媛県、徳島県との県境となっており、また地域のほぼ中央を東西に四国三郎「吉野川」が流れています。

大豊町には、高知自動車道の大豊インターチェンジが開設されています。

嶺北地域の位置

◆**面積**　：９６５ｋ㎡（高知県全体：７，１０４ｋ㎡）
高知県全体の１３．６％を占めています。

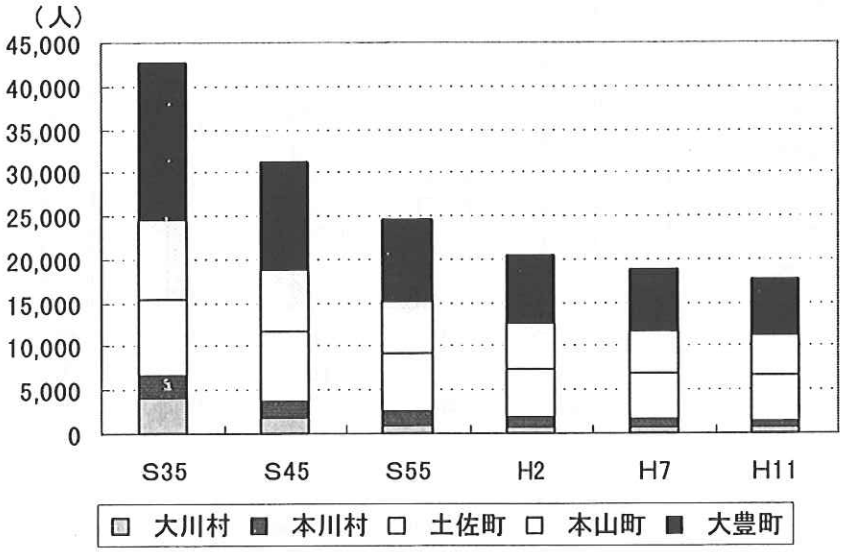
大豊町	３１，４９４ha
本山町	１３，４２１ha
土佐町	２１，２１１ha
大川村	９，５２８ha
本川村	２０，８７０ha
嶺北５ヶ町村	９６，５２４ha

◆**人口**　：１８，７８２人（平成７年国勢調査）
嶺北地域の人口の推移は以下のようになっています。

人口の推移

単位：人

	S35	S45	S55	H2	H7	H11
大川村	4,114	1,900	906	758	680	619
本川村	2,507	1,766	1,716	1,102	930	822
土佐町	8,734	8,099	6,633	5,566	5,292	5,109
本山町	9,182	7,052	6,011	5,215	4,901	4,707
大豊町	18,231	12,440	9,411	7,760	6,979	6,506
計	42,768	31,257	24,677	20,401	18,782	17,763



出典：国勢調査資料
（※H11は高知県統計課資料（1月1日現在））

◆土地利用

地域の８９．７％を森林が占め、農用地面積は１．７％、宅地面積は僅かに０．４％と、典型的な山村地域となっています。

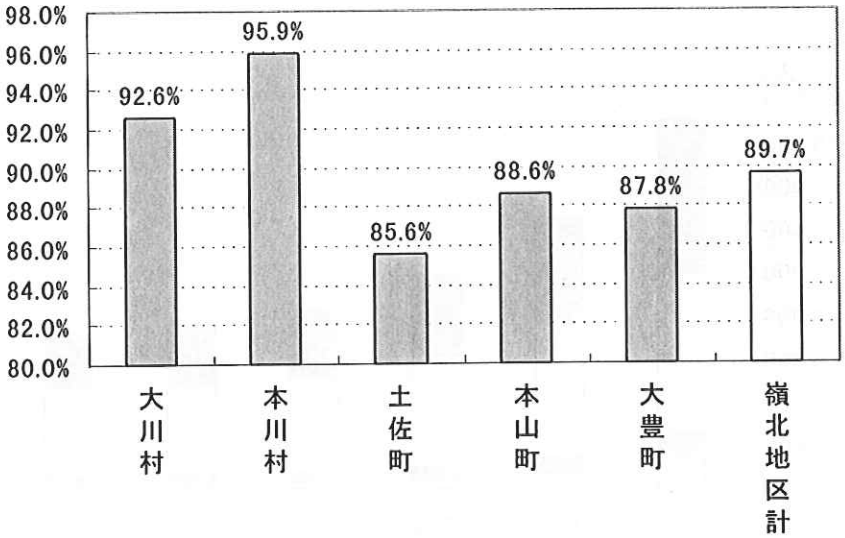
土地利用状況（平成６年）

	面積 (ha)	森林面積（ha）		農用地面積（ha）		宅地面積（ha）	
			比率(%)		比率(%)		比率(%)
本山町	13,421	11,897	88.6	343	2.6	75	0.6
大豊町	31,494	27,677	87.9	571	1.8	134	0.4
土佐町	21,211	18,147	85.6	640	3.0	100	0.5
大川村	9,528	8,827	92.6	77	0.8	20	0.2
本川村	20,870	20,014	95.9	18	0.1	22	0.1
嶺北地域 計	96,524	86,552	89.7	1,649	1.7	351	0.4
同シェア（%）	13.6	14.6		4.7		3.4	
県　計	710,394	594,054	83.6	35,380	5.0	10,296	1.5

出典：平成６年土地利用現状把握調査（国土庁）

吉野川の源流を遡るほど森林原野率が高くなり、本川村では９５．９％に達しています。

森林原野率



出典：平成６年土地利用現状把握調査（国土庁）

2）過疎化、高齢化の状況

◆過疎化の状況

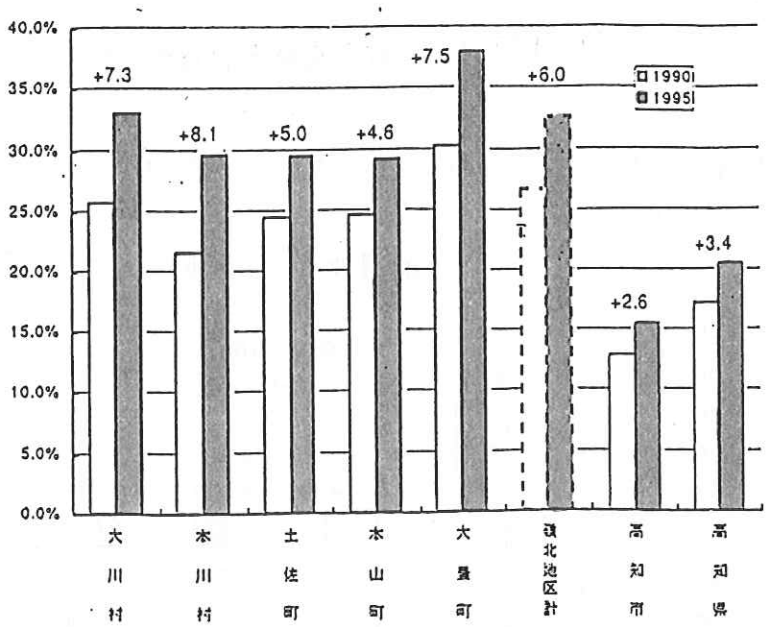
嶺北地域は、高知県内で最も過疎化が進んでいる地域の一つとなっています。特に、大川村は早明浦ダム建設や白滝鉱山の閉山等により過疎化進行の状況は著しくなっています。

	昭和30年（人）	平成11年	比率（%）
高知県	854,595	812,464	95.1
嶺北5ヶ町村	42,768	17,763	41.5
大川村	4,114	619	15.0

◆高齢化の状況

1995年の高齢者比率は33％で、1990年から5年間で6．0ポイント上昇しています。高知市や高知県全体でも高齢化傾向にありますが、山間地である嶺北地域の高齢者比率は高知市の倍であり、高齢化の深刻さが伺えます。

高齢者比率の推移

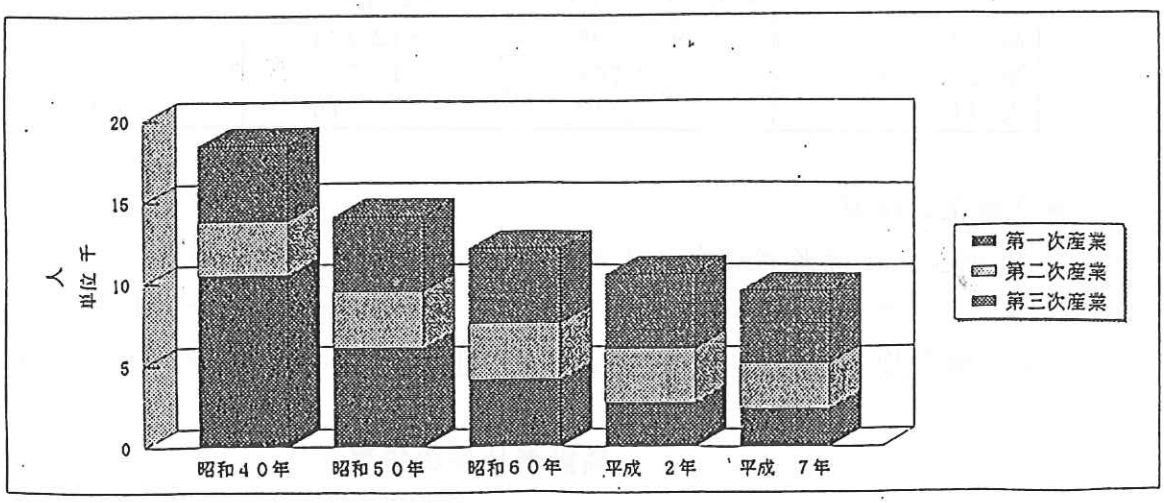


出典：総務庁統計局「国勢調査報告」

3）嶺北地域の産業

嶺北地域の基幹産業は、農業、林業の第１次産業でしたが、土地条件の悪さからくる生産基盤の制約、生産性の低さ、農業従事者の減少、高齢化などにより第１次産業は衰退しています。

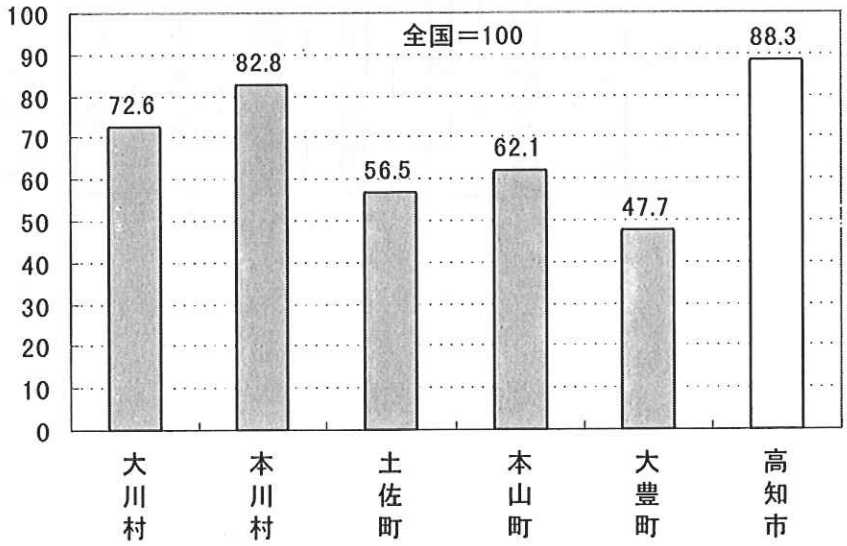
産業分類別就業者数の推移



出典：国勢調査資料

嶺北地域の所得水準は、高知市に比べておしなべて低くなっています。

所得水準（1996）



：各市町村の所得水準を全国を 100 としてみたもの

出典：自治省税務局市町村税課資料

4）嶺北地域の林業

嶺北林業は、高知県中央北部の山岳地帯に位置し、地域の中央を東流する四国三郎吉野川の両岸に広がる大豊町・本山町・土佐町・大川村・本川村の５ヶ町村の林業を総称したものです。

「藩政時代」には白髪山諸山（嶺北一帯）のヒノキを主とする優良材が吉野川を利用して上方に運漕されるとともに、幕府の許可により大阪で我が国初の木材市売市場を形成し、「白髪町」の名のつく由来のできたほどの銘木を生産した歴史をもつ地域です。

その後、藩主の交代や人工造林の不徹底等により、天然資源は減少し嶺北林業は衰退しましたが、明治中期になると日本経済は発展期を迎え木材の需要は増大し、国から民に払い下げられた山林も木材生産の場として見直されるようになりました。

そして、この頃から伐採された跡地を利用して焼畑農林業が始まり、雑穀収穫跡地への三椏と杉の混植造林が盛んとなり、人工造林が行われるようになりました。

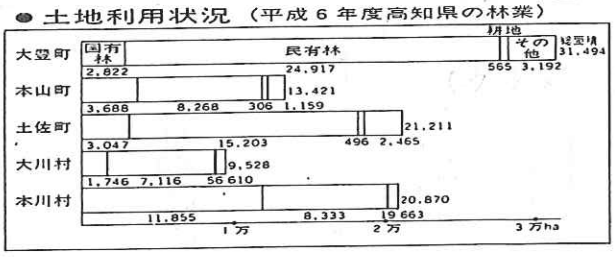
こうして、第二次世界大戦までは嶺北林業として充実され、かなりの知名度をもつようになりつつありましたが、不幸にして大戦の勃発により、戦中は軍需用材として大量の供出を余儀なくされました。さらに戦後は国家復興のための用材として木材需要が急激に増大し、当嶺北地域も大きく影響を受け無計画な過伐となりました。

その結果、嶺北林業の礎も一部を残して継承されることがありませんでした。

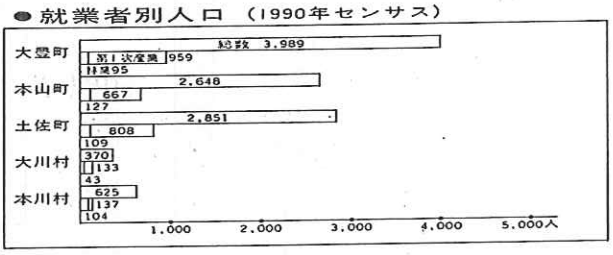
このような中で、地域の熱意ある関係者は森林資源の枯渇は、「地域経済の柱を損なう」ことを憂慮して国の森林造成施策を導入し、再造林はもとより拡大造林も積極的に推進しました。

その結果、現在の人工林率は７５％に達し、これは県下の１６％を占めるに至っています。

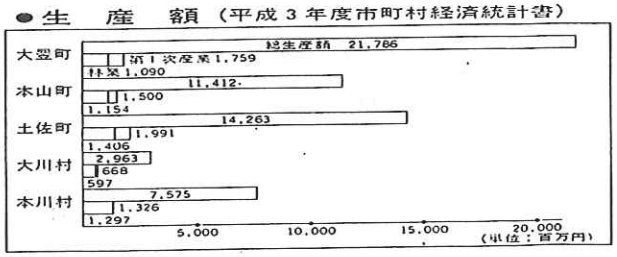
● 土地利用状況（平成６年度高知県の林業）



● 就業者別人口（1990年センサス）



● 生　産　額（平成３年度市町村経済統計書）



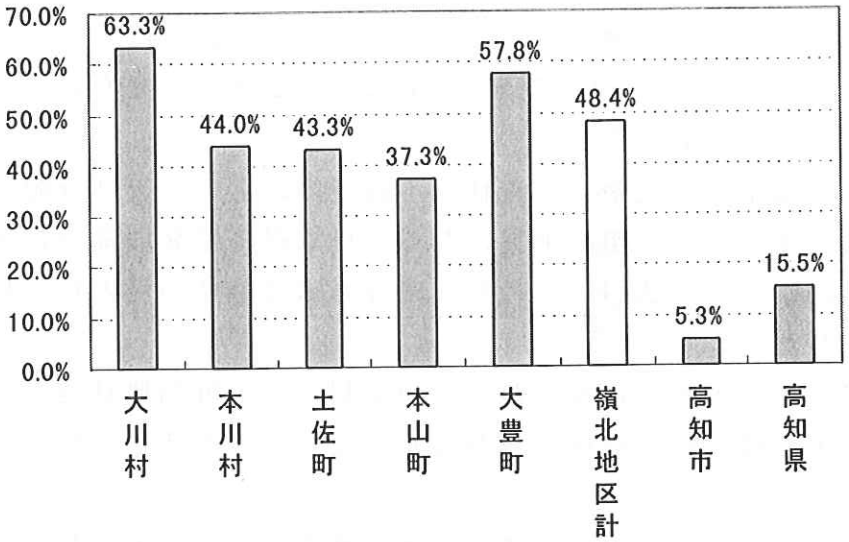
● 林業労働者の年齢構成（平成５年度林業労働対策事務要覧）

町村＼年齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～	計
大豊町	3 (0.7)	6 (1.3)	17 (3.7)	36 (7.9)	51 (11.2)	113 (24.7)
本山町	4 (0.9)	7 (1.5)	26 (5.7)	40 (8.8)	24 (5.3)	101 (22.1)
土佐町	6 (1.3)	19 (4.2)	19 (4.2)	44 (9.6)	38 (8.3)	126 (27.6)
大川村	0 (0.0)	1 (0.2)	3 (0.7)	15 (3.3)	26 (5.7)	45 (9.8)
本川村	7 (1.5)	5 (1.1)	13 (2.8)	23 (5.0)	24 (5.3)	72 (15.8)
計	26 (5.7)	38 (8.3)	78 (17.1)	158 (34.6)	163 (35.7)	457 (100.0)

（　）内は％

林家数の比率をみると、嶺北地域平均は４８．４％で、高知県平均の３倍以上になっています。中でも大川村と大豊町は比率が高くなっています。

全世帯数に占める林家数の比率（1990）

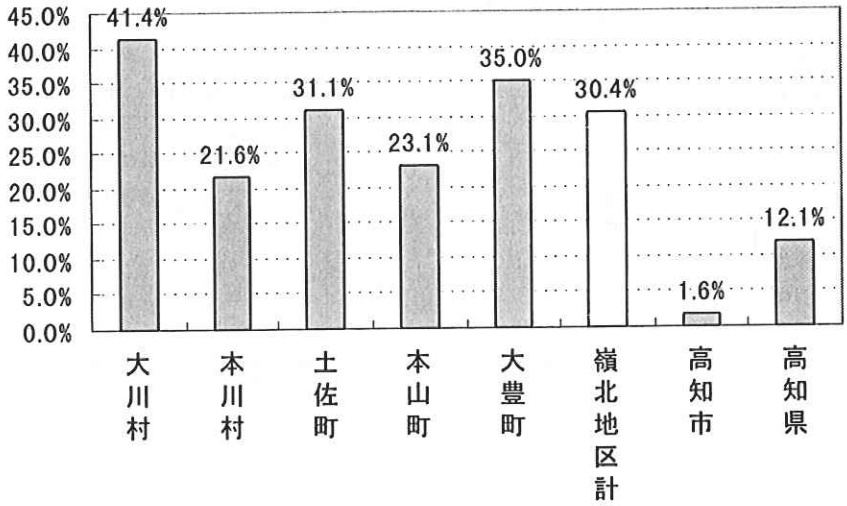


出典：農林水産省「世界農林業センサス 1990」
自治省行政局振興課「住民基本台帳に基づく全国人口・世帯数表」

５）嶺北地域の農業

農家数の比率をみると、嶺北地域平均は３０．４％で、高知県平均の２．５倍になっています。中でも大川村、大豊町、土佐町は比率が高くなっています。

全世帯数に占める農家数の比率（1995）



出典：農林水産省「1995 農業センサス」
自治省行政局振興課「住民基本台帳に基づく全国人口・世帯数表」

6）嶺北地域の観光

嶺北地域の主な観光施設として以下のものがあげられます。

主な観光施設

	主な宿泊施設	主な観光地	主なイベント	キャンプ場等
本川村	山荘しらさ 寒風荘 一の谷やかた	高原ルート村道瓶ヶ森線 瓶ヶ森 揚水発電所 吉野川源流モニュメント 道の駅（平成 11 年度完成予定）	アメゴ釣り大会 氷室まつり 吉野川源流まつり 本川神楽	おこぜバンガロー 白猪谷バンガロー 白猪谷オートキャンプ場 しらさ野営場
大川村	自然教育センター「白滝」	木星会 自然王国白滝の里	白滝ふるさと祭り 謝肉祭	白滝キャンプ場
土佐町	さめうら荘	早明浦ダム 酒造桂月館 観光リンゴ園 木の博物館樹華夢 道の駅	湖水まつりやまびこカーニバル 早明浦湖畔マラソン 土佐町産業文化祭	おこぜ村おこぜハウス さめうら森林公園バンガロー
本山町		白髭山県立自然公園 帰全山公園 大原富枝文学館 奥白髪温泉 観光案内センター	花(ｼｬｸﾅｹﾞ、桜）まつり 吉野川いかだ祭り 汗見川清流マラソン 本山町産業文化祭 カヌー四国選手権	帰全山キャンプ場 冬の瀬キャンプ場 白髪山ふれあいの村休養センター
大豊町	山荘梶ヶ森 ゆとりすとパークおおとよコテージ	ゆとりすとパークおおとよ 日本一の大杉（道の駅） 大杉の苑 梶ヶ森天文台 旧立川番所書院 碁石茶博物館 豊楽寺薬師堂 定福寺	福寿草まつり 岩原神楽 施餓鬼舟 大杉しめなわ祭り 永渕神楽	梶ヶ森キャンプ場 ゆとりすとパークおおとよオートキャンプ場

上記以外にグリーンツーリズムに関連するイベントとして以下のものがあります。

○大豊町　合鴨ツアー（日帰りの稲作体験、年２回）
　　立川御殿茶屋・手打ちそば体験（土日祝日）
　　薬師観光農園（10 月上旬～11 月上旬）
○本山町　吉野川カヌー大学（８月上旬土～日曜日）
○土佐町　桃の木のオーナー制度、減農薬米の産地直売と交流
○大川村　子供自然王国（７月下旬、１週間の短期留学）、
　　香川県どんぐり銀行との交流

また、嶺北地域の味覚、嶺北地域にゆかりのある人物として以下のものがあげられます。

嶺北地域の味覚（観光パンフレットより）

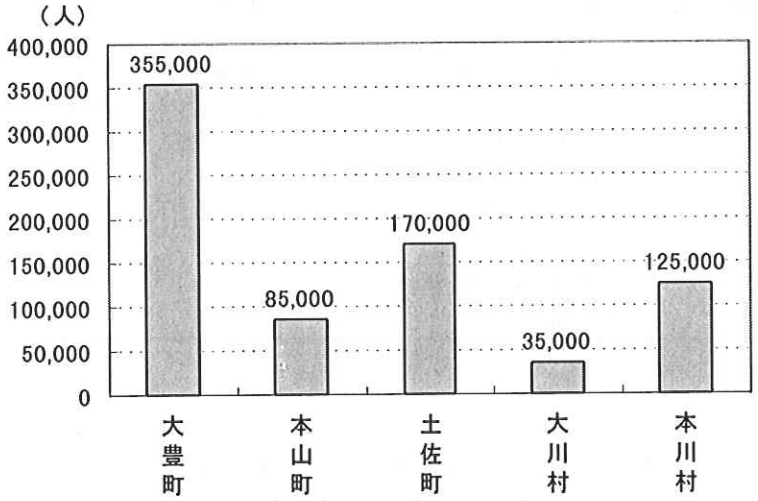
手打ちそば	大豊町、本川村
ハーブ料理	大豊町
黒牛バーベキュー	大川村
猪肉	大川村
赤牛ステーキ	土佐町、本山町
山菜料理	大豊町、本山町
きじ料理	本川村

嶺北地域にゆかりのある人物

美空ひばり	大豊町　遺影碑・歌碑
小砂丘忠義	大豊町　つづり方教室の先駆者　記念館
大原富枝	本山町　大原富枝文学館
野中兼山	本山町　帰全山公園に銅像
大町桂月	土佐町　桂月館

また、各町村の年間推定入込数の合計は以下のようになっています。

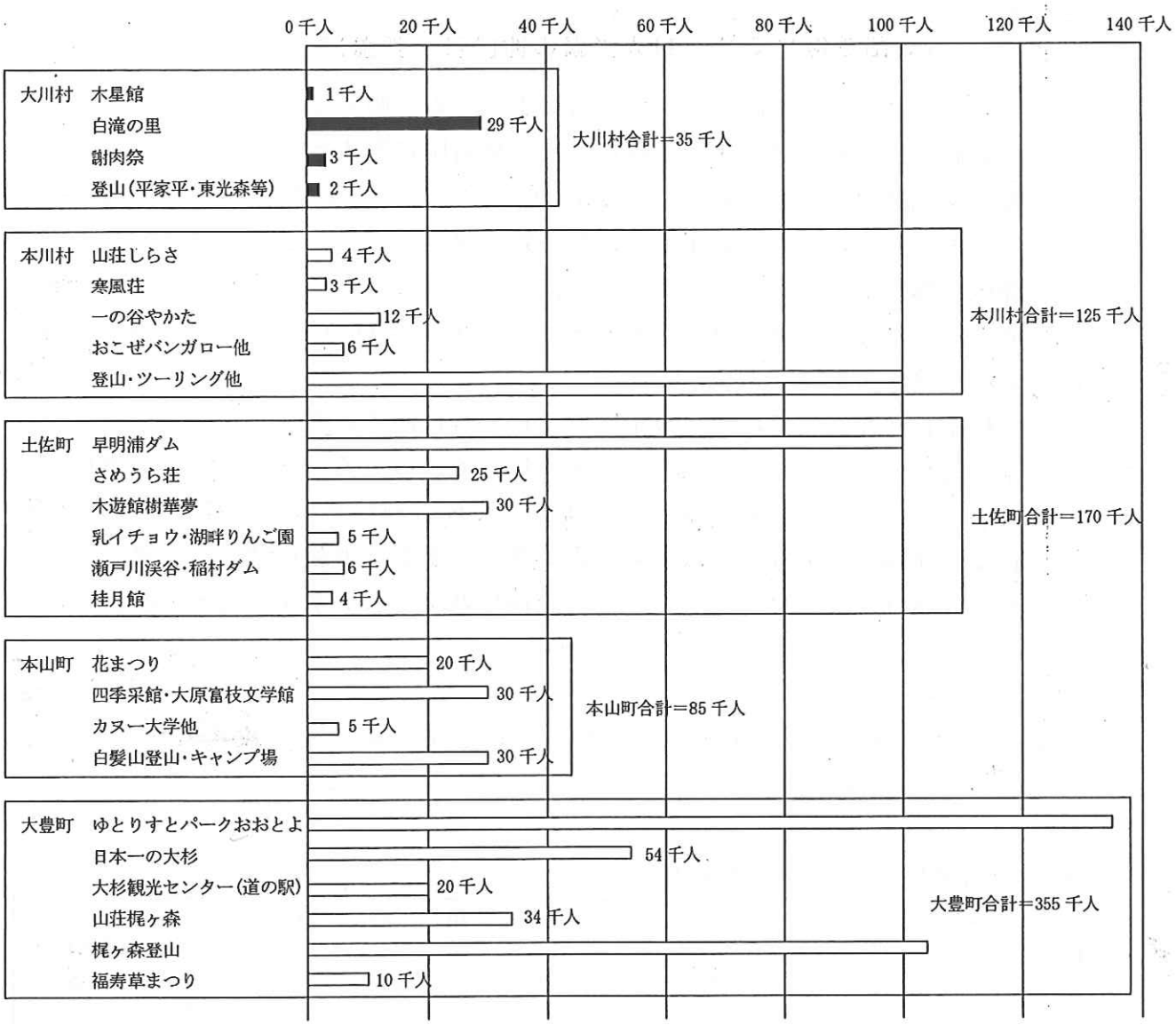
町村別の観光客年間入込数（推定 1996）



出典：嶺北広域市町村圏の概要

施設・目的別の観光人口をみると、第１位、２位は大豊町の施設です。大川村の観光人口が最も少なく、大豊町の１０％に留まっています。

施設・目的別の観光人口（1996）



出典：嶺北広域市町村圏の概要

参考－２．吉野川流域における上下流交流の取り組み

１）嶺北広域行政事務組合の上下流交流に関する事業

嶺北広域行政事務組合は昭和５４年４月１日に設立されました。広域で共同処理する事務として以下のものがあげられています。

○老人福祉法及び関係法令に規定する老人ホームに関する事務
○伝染病予防法及び関係法令に規定する伝染病院に関する事務
○廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関連法令に規定する一般廃棄物に関する事務（ごみ処理、し尿処理、最終処分場）
○墓地、埋葬に関する法律の火葬場に関する事務
○消防組織法及び消防法並びに関係法令により市町村の処理事項とされている消防に関する事務
○学校給食法及び関係法令に規定する学校給食に関する事務
○嶺北教育研究所の設置及び同研究所が行う教育の充実、振興に関する事務
○嶺北広域ふるさと市町村圏計画の策定及び同計画に基づく事業の実施の進行管理、連絡調整並びに広域活動計画に基づく事業の実施に関する事務
○嶺北流域林業振興計画の策定及び同計画に基づく広域事業の実施、連絡調整に関する事務

嶺北広域行政事務組合の吉野川流域における上下流交流の取り組みとして、以下のものがあげられます。

◆吉野川流域ネットワーク事業

事　業　名	事　業　内　容　等
吉野川交流スポーツ大会	「みんなで守ろう森と湖」をテーマに吉野川水源地域と四国４県受益地域が“四国のへそ”池田町と嶺北に集い（毎年交代）、スポーツを通して交流し、相互理解を深めると共に森や湖の大切さを再認識することを目的に「川の日」制定記念行事として実施している。平成 10 年度で第３回目を迎えているが、毎回約 800 人前後の人が集い、交流と親睦を深めている。
吉野川水源の森交流事業	四国４県の受益地域の方々が水源地域を訪れ、植樹（育樹）等を通して水源地域の方々との交流を図るとともに、水源林の保全を図る行事について支援する。
四国三郎「吉野川」ふれあい会議	水源地域の民間機関代表者、町村、建設省、四国４県および水資源公団からなる「四国三郎（吉野川）ふれあい会議」を発足し、交流に関する意見交換、情報交換、企画等を行うことにより、今後の上下流交流（地域連携）を活性化させ、水源地域と受益地域の健全な交流を図ることを目的とする。

早明浦ダム環境保全創出協議会	早明浦ダムの周辺環境整備、ダム湖の利用、水質保全対策等に対する基本計画の策定のために、「早明浦ダム環境保全創出協議会」を設立し、早明浦ダム環境保全計画の策定に関し、これを審議し助言を与えることを目的とする。
しこくのまんなか「森と水のまち・れいほく」ネットワークプラン事業	「人」「物」「情報」の交流へと発展させる為に、嶺北地域が一体となって地域資源を活かしたネットワークプランを策定する事により、自然等とのふれあいを体験・学習できる場を、高速道路等を通じた都市圏の住民に提供していこうとするもの。
高松市水道週間キャンペーン事業 「限りある命の水を大切に」	頻発化傾向にある渇水を教訓に、節水型社会の形成を目指し節水及び水の有効利用等、改めて水の大切さについてアピールするなど、市民の理解を一層深め、信頼され、親しまれる水道の構築を図るため「水道週間」を通じて、水源と水道に理解と関心を高めて頂くために、市民参加で広報活動等の運動を積極的に実施するもの。
香川県ウッディフェスティバル事業	木材の需要拡大、林業振興、森林保全のそれぞれの重要性及び相互の有機的関係について、香川県民の理解を得ることを目的とする。 嶺北地域は川上関連地域として、嶺北地域の特産品の販売及びパンフの配布を行い、嶺北地域のＰＲ活動を行う。
さめうら緑の森交流体験事業	吉野川下流地域の子どもたちに、水源地域の森林の持つ役割・現状を知ってもらうことを目的とする。親子対象の体験型の森づくりツアーを実施し、夜間はカレー炊事や木工教室を行う。
香川用水フェスティバル事業	香川県民や次代を担う子どもたちに、水の大切さと香川用水事業の意義を再認識してもらい、香川用水の歴史と恩恵を永く後生に伝えると共に、香川用水水源地域に対する理解と感謝の意の高揚を図るためにイベントを開催する。

◆れいほく特産品プロモート事業

れいほく特産品プロモート事業	地場産品のＰＲやイベントの開催を通じて嶺北地域の商品の流通を支援すると共に、農畜林産物の流通体制について調査研究し、嶺北独自の流通システムづくりを推進することを目的とする。

◆れいほく情報発信事業

キャンペーンレディ事業	嶺北の顔として、嶺北５ヶ町村及びその他関係機関からの要請のあった各種イベント等に参加し、嶺北地域を幅広くＰＲしながら観光振興を図る。キャンペーンレディは満 18 歳以上で嶺北５ヶ町村に在住している者から選出し、任期を２年とし、１年毎に１名を５ヶ町村から順次交代で選出する。
おいでよ！れいほく（情報誌発行）事業	年３回（春・夏・秋）の観光季節前に嶺北地域のイベント、特産品等新しい情報を発信する。総合案内としてのガイドブック「土佐れいほく」と異なり、季節毎の観光コース等を明示し、都市圏の人が見ても交通ア

	クセス等が分かりやすい具体的な内容の物とする。発送登録者は、イベント参加者や地域内の各施設で署名された発送希望名簿による。
ガイドブック「土佐れいほく」発行事業	嶺北５ヶ町村の宿泊施設、キャンプ場、バンガロー、お祭り、イベント、特産品、ネイチャーランド等を掲載した総合案内的ガイドブック「土佐れいほく」を発行し、戦略的に圏域内外に配布することによって、四国三郎「吉野川」源流の里“れいほく”を幅広くＰＲしながら、「人」「物」「情報」の交流へと発展させ、自然等とのふれあいを体験、学習できる場を都市圏の人々に提供することにより、嶺北地域の文化の振興や交流人口の拡大を図ると共に、経済効果等地域の活性化を図る。
インターネット事業（ホームページ開設）	インターネット上でホームページを開設し、広域概要及び嶺北５ヶ町村の観光案内等、情報発信を行う。
れいほくシンボルマーク制定事業	嶺北５ヶ町村の統一したシンボルマークを広く募集することにより、地域住民の文化的啓蒙と「嶺北」としての意識の向上、また「嶺北」の全国へ向けての情報発信をねらいとする。圏域外に公募を行うことにより、嶺北地域の知名度向上やイメージアップの効果を期待する。

◆れいほく体験企画事業

ネイチャーハント事業	嶺北の山、植物、動物などの自然を宝物に見立て、登った山の数などでポイントを競うゲーム。平成９年度PART７では各難易度毎に３コース（初級 13 山、中級 13 山、上級 13 山）を設定しており、一年間に応募した中で最上級の賞品（オリジナル入りバンダナ）を贈呈している。

◆れいほくカップ推進事業

れいほくカップ推進事業	綱引き大会、囲碁大会、将棋大会、カヌー大会、ゲートボール大会、ソフトバレー大会、バレーボール大会、ラグビー大会等広域的に大会を開催している団体にカップを進呈する。

◆れいほく子ども探検隊事業

れいほく子ども探検隊事業	嶺北地域の子どもたちに、四国三郎「吉野川」の源流域から河口に至る流れを探検し、地域内・外との交流を深めると共に、森と水を守る「れいほく」の素晴らしい魅力を体験する機会を創るなど、次代を担う子どもたちが地域の文化や暮らしに触れることにより、地域に対する意識の向上を図ることを目的とする。 １泊２日の日程で嶺北地域及び徳島県において、自然とのふれあいを体験すると共に、地域外の人々との交流を深める。

◆嶺北広域各種基金関係

吉野川流域ネットワーク基金	「吉野川源水をはぐくむ会」より毎年贈られている資金を積み立てた基金。 平成10年度より「れいほく子ども探検隊事業」の一部に活用されている。

＜参考＞

広域行政事務組合以外の広域的組織には以下のものがあります。

組　　織　　名	内　　容
嶺北地域農林業振興連絡協議会	農林業振興に関する組織
嶺北地域国産材振興協議会	林業振興に関する組織
嶺北地域林業活性化センター	林業振興に関する組織
嶺北地域加工品育成販売連絡協議会	地域特産物の開発に関する組織
㈱嶺北畜産	肥育牛育成、販売の会社（第三ｾｸﾀｰ）
㈱とされいほく	林業会社（第三ｾｸﾀｰ）
嶺北木材協同組合	木材市場の組合
嶺北林材協同組合	製材所の組合
土佐産商株式会社	産直住宅の販売
嶺北プレカット事業協同組合	産直住宅の加工
財団法人木材研究所土佐人材養成ｾﾝﾀｰ	大工の養成学校

2）四国４県の吉野川上下流交流に関する取り組み

四国４県の吉野川流域における上下流交流の取り組みとして、以下のものがあげられます。

◆四国４県共通事項

事業名	事業内容等	備考
早明浦湖水祭 主催：早明浦湖水祭実行委員会	吉野川総合開発事業の基幹である「四国のいのち」早明浦ダム湖畔において、四国４県が一堂に会し、水資源開発の尊い犠牲になられた方々に感謝等するとともに、水の有効利用、水源かん養思想の高揚、水源地域と利水地域の調和のとれた経済、文化の発展を考え、四国の一体感づくりを深めることを目的とする。 【行事】 ・水神祭、式典、交歓会 ・四国の子ども交歓会 ・スポーツ交流大会 ・その他	８月第一土曜日を中心に実施
池田へそっ湖まつり 主催：池田へそっ湖まつり実行委員会	池田ダムにおいて、水源地域及び受益地域の住民が相集い、治水及び利水の重要性について相互理解を促進するとともに、森や湖に親しみ、これを愛護する心を高め、もって地域の振興を図ることを目的とする。 【行事】 ・水神祭、式典 ・地域交流スポーツ大会 ・カヌーフェスティバル ・その他	７月の最終土曜日を中心に実施
吉野川スポーツ交流大会 主催：四国三郎（吉野川）ふれあい会議	吉野川の水源地域と四国４県の受益地域の人々が、水源地域である「高知県嶺北地域」（早明浦ダム周辺）並びに「徳島県三好地域」（池田ダム周辺）に集い、スポーツ等を通して交流しながら相互に連携し、それぞれに理解を深めるとともに、川や森、湖の大切さを認識することを目的とする。 （一年毎に嶺北地域と三好地域で交互開催） 【種目】 ・ソフトボール ・バレーボール ・綱引き ・Ｅボート	川の日関連事業として７月に開催（日曜日）

◆徳島県

事業名	事業内容等
吉野川水源地域対策基金 （企画調整部）	吉野川水系におけるダム建設等の治水及び利水のための諸施策に伴い必要となる、水没関係住民の生活再建対策並びに水没関係地域の振興、整備等のための資金の援助、調査研究を行うとともに関係地域の相互理解及び交流の促進等を行うことにより、吉野川水系における治水及び利水のための諸施策の推進、水没関係住民の生活の安定及び水没関係地域の振興を図り、もって流域関係地域の振興と一体的発展に資する。
吉野川新交流プラン （企画調整部）	徳島県の象徴であり、産業や文化、住民の生活そのものを支えてきた「吉野川」を対象として、その流域を個性的で魅力あふれる地域として創造し、全国に誇れる徳島の新しい顔づくりを計画的に推進していくための指針として「吉野川新交流プラン」を策定 ＜内容＞ 行政・企業・住民が互いに連携して取り組む各種事業を５つのリーディング・プロジェクトとして提言 １）「よっしゃやらんか吉野川」 ：河川空間の美化、水環境の保全、森林保全など ２）「あそぼう三郎くん吉野川」 ：子供が近づき遊べる河川環境の整備、環境副読本や吉野川マップの作成など ３）「いかんかこいこい吉野川」 ：川の駅の整備、遊歩道・サイクリングロード・マラソンコースの整備など ４）「とれとれいきいき吉野川」 ：流域特産品の普及、農山村資源を活かした交流の場づくりなど ５）「阿波の先生吉野川」 ：吉野川舟運や橋の調査研究、伝統芸能の保存・復活など
上下流連帯意識の普及や連帯強化 （農林水産部）	上下流連帯意識の醸成、相互理解 ①シンポジウムの開催 97/ 8/20：「山村と都市の共生を図る」 98/10/14：「森林・農村問題をかたるｲﾝ四国大学」 99/ 2/27： 内容等未定 ②森林・農山村ツアー 公募した都市住民による農山村地域の視察と地域住民との意見交歓会 98/10/31： 上勝町　　都市住民 37 人 98/11/ 8： 木屋平村　都市住民 34 人
	農林業体験と上下流連帯意識の醸成、相互理解による交流 ③ボランティアや民間団体（Jounﾈｯﾄﾜｰｸ）による森づくり等交流促進 森林作業体験と地域住民との意見交換会や学生フォーラム 98/ 7/15～17： 井川町　　徳島大学学生 19 人 98/ 8/ 2～ 4： 井川町他　全国公募　　30 人

早明浦ダム「命の森づくり」交流事業 （土木部）	水源地域と受益地域（流域）の人々が一緒になって、ダム湖周辺で植樹をすることにより多くの人々が水源地域の大切さと、それを守り育てる気持ちを広め、参加者一人一人が自らの手で苗木を植え、森づくりを体験することにより、水源涵養林の大切さを多くの方々に知ってもらい、水源地域と下流地域との交流を図り、更に早明浦ダムの役割と重要性を知ってもらうことを目的とする。 ＜平成10年度事業内容＞ 時　期　H10.11.28 参加者　吉野川下流のボランティア　80人 場　所　早明浦ダム上流右岸 方　法　潜在自然植生によりシイ・タブ・カシ等のポット苗木800本を植樹 その他　植樹後に記念碑を建立 参加団体　主催:徳島県、建設省吉野川ダム総合管理事務所 協賛:吉野川源水をはぐくむ会
「川の日」吉野川スポーツ交流会 （土木部）	吉野川の水源地域と受益地域の人々が水源地域である「徳島県池田町」に集い、スポーツ等を通じて交流しながら相互に連携し、それぞれに理解を深めるとともに川や森、湖の大切さを認識する。 交流大会は、毎年7月又は8月に嶺北地域（高知県）と三好地域で相互に開催 ＜行事内容＞ ・スポーツ交流：ソフトボール、バレーボール、綱引き、Eボートの各大会 ・記念植樹：池田ダム湖畔において4県の県木及び水源地域町村の木をソフトボール大会参加の小学生により記念植樹 ・参加団体：水源地域と受益地域（四国4県）の方々約530名
吉野川に関係して活動を実施している団体	
吉野川源水をはぐくむ会	水は貴重な資源であると同時に、生命の源である。近時、山村社会の危機が伝えられる中、山林が荒れ、水源かん養、水質保全が急務となっている。吉野川源流域の人々がこのために深尽の努力を行っていることに感謝し、その活動への協力、支援を目的。 ・吉野川の源流に関心を持つ人々の賛同を得て、源水をはぐくむ活動への支援を行う。 ・現地と会員、会員相互の交流、連帯を図る。 ・水問題についての研究活動、啓発活動を行う。 ・その他、水源をはぐくむ活動の支援を行う。 （会員数：347名　H7.7現在）

◆香川県

事業名	事業内容等	備考
香川用水の水源巡りの旅事業	香川用水に対する認識を深めるとともに、水源地域との交流に資することを目的として、県内の中学生を対象に早明浦ダム、池田ダムをはじめとする香川用水の水源巡りの見学会を実施している。 　また、事業の一環として、早明浦ダム	平成6年度から実施 平成8年度から植樹も実施

	湖畔において、建設省と共催で「吉野川水源の森交流事業」による植樹を実施している。 平成10年度参加実績：59校、9,391人	
親子ふれあい森づくり交歓会	香川用水の重要水源である早明浦ダム周辺の森林が持つ役割について、親子による森づくり体験を通して学習するとともに、水資源の有限性と重要性について認識を深める。 併せて、水源地域の人達との交歓会を実施し、受益地域と水源地域との上下流交流の促進を図る。 平成10年度参加者：67人	平成10年度から実施
吉野川に関係して活動を実施している団体		
香川県どんぐり銀行	香川用水による水を通じた長年の繁がりを踏まえ、この水を育む森を通して、香川県どんぐり銀行スタッフと高知県大川村との交流を更に発展させ、住民の相互理解と友情を増進することを目的とする。 大川村有林の一部（「交流の森」と命名する）において地元の人達の協力のもと、広葉樹を中心に植樹し、下草刈りなどの保育についても、香川県民のボランティアによる手入れを実施するとともに、大川村で体験可能なコンニャク作り・山歩き・自然観察などワークキャンプとして年間通じて実施している。 「交流の森」づくり計画 ・場所：高知県土佐郡大川村朝谷 ・面積：0.8ﾍｸﾀｰﾙ	平成6年度から早明浦ダム周辺での植樹等を実施

その他に、高松市立栗林小学校の生徒が高知県大川村で1学期の終了式を行い、地元の小学生とキャンプを通じた交流なども行っています。

◆愛媛県

事業名	事業内容等
「四国三郎（吉野川）ふれあい会議」	○愛媛県、川之江市、伊予三島市が参加している。 内容：吉野川スポーツ交流 【ソフトボール、バレーボール、綱引き、Ｅボート、記念植樹】 《参考（昨年度実績）》 ・伊予三島市：小学生女子バレーボールチームを派遣 ・川之江市：小学生男子ソフトボールチームを派遣

◆高知県

事業名	事業内容等
環境学習用副読本「吉野川アクアくんと水の旅」の作成及び配布	吉野川源流地域の水や森の働きと人々の暮らしなどを内容とする副読本を作成し、関係する嶺北地域、香川県、徳島県及び高知市の小学４年生等を対象に配布した。 ・平成９年度実績 ・印刷部数　約１万部 ・地域連携支援事業の導入（国土庁所管）
体験型森づくりツアーの実施	早明浦ダムの受益地域の子供達に、水源地域の森の現状や、その役割を知ってもらうとともに、枝打ちなどの森づくりを自ら体験してもらった。 ・平成９年度２回実施 ・参加人数　５６名
親と子の水の旅	水の週間行事の一環として、早明浦ダムのある本山町の子供と親を水の貴重さや水資源開発の重要性を知ってもらうために、受益地域である香川用水記念公園等を訪ねた。 ・平成１０年度実施 ・参加人数　４３名
その他	・植樹等への参加 ・親子ふれあい森づくり交歓会（香川県主催）への参加 ・吉野川スポーツ交流大会への参加

３）吉野川上下流交流に関する基金

吉野川流域における上下流交流の基金として、以下のものがあげられます。

事業名	事業内容等
吉野川水源地域対策基金	吉野川水系におけるダム建設等の治水及び利水のための諸施策に伴い必要となる、水没関係住民の生活再建対策並びに水没関係地域の振興、整備等のための資金の援助、調査研究を行うとともに関係地域の相互理解及び交流の促進等を行うことにより、吉野川水系における治水及び利水のための諸施策の推進、水没関係住民の生活の安定及び水没関係地域の振興を図り、もって流域関係地域の振興と一体的発展に資する。 昭和 61 年３月に発足。平成２年４月に基金造成が完了し、平成３年度からは基金全額（７億１千９百万円）の運用により事業を展開。 ＜平成 11 年度交付予定＞ ・交流促進事業 ：早明浦湖水祭、池田へそっ湖まつり各 350 万円 ・ダム基金事業 ：早明浦ダム周辺整備事業 957 万円、池田ダム周辺整備事業 140 万円

4）建設省四国地方建設局の吉野川上下流交流に関する取り組み

建設省四国地方建設局の吉野川流域における上下流交流の取り組みとして、以下のものがあげられます。

事業名	事業内容等
吉野川新交流プラン	平成9年10月、徳島県と建設省の共同で、徳島県の豊かな自然の象徴であり、徳島の産業や文化、そして住民の生活そのものを支えてきた吉野川を対象として、個性的で魅力あふれる地域を創造し、全国に誇れる新しい顔づくりを計画的に推進していくための指針として「吉野川新交流プラン」を策定。（内容の詳細は ◆徳島県 参照）
早明浦ダム環境保全創出計画	平成10年3月、嶺北地域の課題である「自然環境の悪化」「地域の衰退・社会基盤整備の遅れ」に対する解決策を検討し、嶺北地域の明るい将来をつくるため、「早明浦ダム環境保全創出協議会」が策定。 ＜整備テーマ＞ ・森づくり：森林整備/「森の楽校」の整備/森林保全基金 ・里づくり：ふるさとの道づくり/ふるさとの川づくり/ふるさとのシンボルづくり ・人づくり：人材の育成/情報発信/組織・制度
あめんぼ（川の情報誌）の発行	河に親しみ、河を知ることで多くの人に河のはたらきや治水等の大切さを理解してもらう情報誌。毎回、河に関した情報を豊富な美しい写真で特集している。
早明浦ダム「命の森づくり」交流事業	水源地域と受益地域（流域）の人々が一緒になって、ダム湖周辺で植樹をすることにより多くの人々が水源地域の大切さと、それを守り育てる気持ちを広め、参加者一人一人が自らの手で苗木を植え、森づくりを体験することにより、水源涵養林の大切さを多くの方々に知ってもらい、水源地域と下流地域との交流を図り、更に早明浦ダムの役割と重要性を知ってもらうことを目的とする。（平成10年度事業内容は ◆徳島県 参照）

（※情報収集途中のため、今後追加する予定です。）

5）民間団体の吉野川上下流交流に関する取り組み

吉野川流域における民間団体の上下流交流の取り組みとして、以下のものがあげられます。

団体・活動名	活動内容等
吉野川源水をはぐくむ会	1～2回／年 シンポジウムを開催。 早明浦ダムでの植樹祭。 毎年、活動会費を水源地域に寄付している。（30万円／年程度）
吉野川文化研究会	一般の人々の集まり。主婦も含まれている。 1998年10月に「吉野川今昔」という写真集を出版。あわせて、写真展（吉野川流域の4ヶ所で巡回展）を開催。
吉野川学会	学識者と行政担当者の会。 34～35名の学会員からなる。 学会誌を発行。 1回／年 研究発表会を開催。

アーティスト・イン・レジデンスさめうら ランドアート作品写真展	森に入り、光と影・色・音などを肌で感じながら、そこにある物、葉っぱや枝、石や土や水・木の実や光や影さえも使ってそこにある自然と対峙して創るアート（ランドアート）。土佐町を舞台に開催された。 ランドアーティストは大久保英治氏、ミカエル・ハンセン氏。 写真展は、アーティスト・イン・レジデンスさめうらに参加された人達が森の中で自然を感じ楽しみながら創られた作品を写真に納めたもの。1999 年 6 月 15 日～8 月 15 日、土佐町の木遊館・樹華夢で開催。
第５回　森林と市民を結ぶ全国の集い	1999 年 8 月 19～22 日、大川村の自然王国白滝の里をメイン会場に、嶺北５ヶ町村で連携して開催。 国土緑化機構主催。嶺北広域行政事務組合後援。 日本全国より、200 名を超える参加者が嶺北地域を訪れた。
その他	1998 年 5 月に「吉野川事典」がとくしま地域政策研究所より出版された。吉野川について詳しく解説した事典。

参考－３．四国四県内における上下流交流等の取り組み事例

事例１　「森の回廊・四国」の取り組み（高知県から四国全体）

１）「森の回廊」とは

かつては広く天然林におおわれていた四国でも、現在では天然林は点々と島状に孤立している。孤立化した島と島の間を帯状の森林でつないで、森に住む生き物が行き来できるようにするために作り上げられる、長く続く森林帯をここでは「森の回廊」と呼ぶ。

森の回廊は、森林にすむ生き物のための住みかとなり、また、人間にとっても生物と共存可能な適切な森林管理を行う上で有効に働くものである。

２）四国における「森の回廊」の特徴

海外では1980年代から回廊づくりの取り組みが始められているが、我が国では 1996 年に青森営林局が「奥羽山脈縦断自然樹林帯保全計画」を発表している。奥羽山脈の場合は山稜上に残された複数の天然林を結ぶものであり、対象地の大部分が国有林で、天然林が多い。これに対し、四国の森林は民有林が多く、面積的に人工林の割合が高い。また、山岳部から海岸に至る急激な標高差を狭い地域内に持つことが特徴的である。このような四国の森林の特色を考慮した上で、生物の生息場所として機能し、かつ、人間と生物の共存できる「森の回廊・四国」を作ることを提言する。

３）「森の回廊」の必要性

近代化の課程の中で、人間が森林を利用することによる森林への圧力が急激に高まり、森林生態系の変化をもたらした。このことが、森に住む生き物達を危機的な状況に追い込み、人間をも含めた生態系のバランスが崩壊しつつある。

例えば、生物にとって、生息地が孤立してしまうと、その地域での個体数が減ってしまい、絶滅する確率が高くなる。特にもともと個体数の少ない大型の動物ではこの傾向が強く、四国ではツキノワグマを筆頭に、カモシカ、クマタカなどがこのような種類としてあげられる。

また、森林は数多くの種類の生き物が相互関係を保つ複雑な生態系を形づくっている。生物の生息環境としての森林が分断・改変されることによって、直接的な影響をこうむる種類のみならず、生態系内の相互関係を通じて間接的に多くの種類の生き物が影響を受け、それによって生態系そのものが大きく変化してしまう。多様な生き物の住む生態系を保つためには、生き物の住みかとしての森林を孤立化させることなく、隣り合った生態系同士の相互作用を途切れさせないようにすることが重要である。

このような生態系としての森林を維持し、未来に伝えていくために、人間と生物の共存を可能とするような森林づくり、すなわち「森の回廊」が必要なのである。

4）「森の回廊」を実現させるために

森の回廊を作っていくためには、コア（核心部）となる良好な状態の森林が十分あること、コアを結ぶ森林帯が設定されること、その森林帯も生物の生息場所として必要な環境と幅を備え、生物との共生するための森林管理がなされることなどが具体的な条件としてあげられる。

森の回廊の実現のためには、技術的な側面のみならず、自治体、森林所有者、地域住民など、その地域の森林に関わる多くの人たちの同意と理解を得なければならない。また、実際の回廊の設定に際しては、制度面の整備も必要になる。このように、技術、理解、制度の各課題に取り組むために、それぞれの関係者ができるところから取り組むようにする必要がある。

地方自治体、国有林、森林所有者、民間団体、研究者、及び個人が各自の取り組める課題を認識してそれぞれに行動を起こし、お互いがネットワークとして機能するように連携することこそ「森の回廊」の実現のための第一歩である。

5）所属団体・活動の紹介

■事務所

高知県香美郡土佐山田町大平 80

（社）高知県森と緑の会内「森の回廊・四国」準備会

■活動している場所

高知県を中心に四国 4 県

■活動を始めた時期と経過

平成 8 年 2 月から現在まで

四国の野生生物の生息域が孤立・断片化されていることに危惧を抱いている森林・林業関係者や野生動物に関心を持って観察している人たちが自主的に集まり会を結成した。

■活動の目的・趣旨

四国島という限られた生活空間の中で独特の発達を遂げてきたと考えられる多くの野生動植物が、現在、人間中心の社会発展のもとで孤立・分断化を余儀なくされ、種の存続と維持が憂慮されている。このため、四国山地の脊梁山脈を中心に保護地域（コア）を設定し、これらを回廊（コリドー）でつなぎ、さらにこの周りを緩衝地帯（バッファー）として野生動植物の種の多様性をはかるとともに、人間と生き物との共存をはかることを目的としている。

■活動の内容

上記目的と趣旨を達成するために学習と実践を行いながら自主的な活動を強化し、行政・研究機関等を中心とした協議会による全体計画の策定をよびかけていく。

■活動の課題

四国4県の結束と国有林・民有林一体となった取り組みをはかること。

個人・行政・団体それぞれがなにが出来るかを考え、出来ることから実行していく。

四国の森林の現状―森林率約80%、人工林率60%強、民有林が多い―の中での森の回廊の構築。

達成目標を200年後とし、ユネスコ文化遺産申請をめざす。

事例２　地域林業の概要と第３セクター㈱とされいほくによる後継者養成（高知県）

１）嶺北地域の概要

(1) 当地域は、四国のほぼ中央の山岳地帯に位置し、愛媛県、徳島県に接し地域の中央を東流する吉野川水系の両岸に広がる、2郡5ヶ町村を範囲とした山村地域である。

(2) 地域の面積は、96,000haで、その90%が森林で、農地はわずか2%で、地域は農業、林業、畜産等の複合経営である。

(3) しかし、地域の人口は昭和30年には、48,798人いた人口も平成7年の国勢調査では、18,782人に減少し、高知県内でも典型的な過疎地域となり、65才以上の高齢者は6,089人となり、32.4%を占め現在では35%に達している。

(4) このまま過疎が進行すれば、将来地域は崩壊するといっても過言ではない状況の中で地域は一体となって色々な施策を講じて、対策に努力しているところである。

２）「林業の概要」

(1)嶺北林業の歴史

嶺北林業の歴史は、藩政時代には、地域一帯にヒノキを主とする天然林が自生していて長曽我部時代にヒノキの優良材を大阪城築城に際して豊臣太閤に献上した事が始まりとされ、元和年間に山内一豊が藩の救済のため、白髪山諸山（嶺北一帯をいう）の優良ヒノキを伐採して、吉野川を流送して大阪に運び、幕府に請願して立売掘（いたちぼり）に木材市場を開設し、白髪ヒノキとして売出し「白髪町」の名のつく由来のできた程の銘木を生産した歴史を持った地域であるが、天然資源は次第に減少し、白髪ヒノキとしての名声は失われていった。

明治の中期に入ると日本経済は発展期を迎え、木材需要の拡大に伴い、放置されていた山林も木材生産の場として、価値が見直され、スギ、ヒノキの造林が行われだした。その頃から急激に焼畑農耕（山を焼いて雑穀を作る）が盛んとなり、その跡地にミツマタとスギの混植造林が行われ、混植林業が推進された。

しかし、第二次世界大戦勃発により、軍需用材として大量の木材が伐採され、更に戦後の復興のために木材の需要が急激に増大し、無計画な過伐によって、ほとんど伐採され、二度目の嶺北林業は消滅した。

このような中で、地域の熱意のある関係者は、森林の枯渇は地域経済の柱をそこなうことを憂慮して、国の森林造成事業を積極的に導入して、再造林はもとより、拡大造林の推進を図り、森林所有者の努力によって、その結果人工林率76%に達し、大規模な国産材供給基地として、今後の発展が期待されている。

(2)森林の現況

森林面積　87,000ha

所有形態　国有林 23,000ha・民有林 64,000ha

人工林　国有林 13,500ha・民有林 48,000ha

蓄積量　国有林 158 万m^3・民有林 1,297 万m^3

(3)森林、林業振興への取り組み

地域は、昭和 58 年から国産材の産地化を目指して取り組み、嶺北地域国産材産業振興協議会を設立し、これを核として広域的に林業振興策を推進してきたが、平成 4 年に、国の施策により、嶺北流域林業活性化センターを設置することになり、これまでの嶺北地域国産材産業振興協議会が担ってきた業務を引き継ぐとともに、新たな方向による流域林業の振興への取り組みが始まった。

具体的な振興策については、林業構造改善事業を柱として、各種補助事業の有機的な導入により、川上、川下対策事業が積極的に展開されているところである。

こうして地域は、森林資源の蓄積量の増大を基盤に、施設整備と併せて人材育成確保に至る総合的な産地化への体制づくりが着実に進んでおり、地域完結型産地への可能性が充実しつつある。

(4)第 3 セクター（株）とされいほく

地域は、国産材供給基地構築を目指して嶺北 5 町村が一体となって、取り組んでいるところであるが、過疎化の進行によって、林業就労者の減少、高齢化、後継者不足等によって、林業生産活動は停滞、減退の傾向にある。

こうした林業の生産活動の再生を図る上から、林業担い手を確保する対策として、魅力ある林業として、高性能林業機械を装備した機械化林業によって、新しい作業体系による、作業の省力化、生産性の向上、労働強度の軽減を図り、他産業並みの就労条件を確保した林業会社として、林業後継者を養成するために平成 3 年 7 月に設立した。

3）所属団体・活動の紹介

第３セクター（株）とされいほく

■資本金

133,100,000 円

■構成員

高知県・嶺北５町村・嶺北５森林組合・高知県森林組合連合会・南国国見森林組合

大豊林業株式会社・山本森林株式会社

■給　料

月給制・公務員に準ずる。

■社　員

現在 19 名（1 名）事務・現場 18 名で、平均年令 31.7 才

■事　業

地域林業を担う技術者としての技術養成を行いながら、森林整備事業を実施している。

■今後の課題

四国の水源地域として「緑のダム」機能の向上が重要であるが、過疎の進行により、地域住民だけでは守りきれなく今後の対策が大きな課題である。

事例３　徳島県上勝町「彩女会」の取り組み（徳島県）

１）地域の概況

上勝町は、人口約 2,300 人、四国で一番小さな町です。

阿波踊りで有名な徳島県のほぼ真ん中にあって、町の 86％が森林でおおわれ集落は、標高 100～700mの間の急な斜面にしがみつくように点在している山村です。近年少子化が進み、典型的な過疎の町となっていますが、もとは林業と温州みかんを基幹産業として発展してきた町でした。

昭和 30 年代からの林業の衰退と、昭和 56 年の大寒波によるみかんの全滅により変革を余儀なくされましたが、試行錯誤の中で生まれた「彩」という事業によって、現在では全国の注目を集め、毎年 3 千人近い人が視察に訪れるまでになりました。「彩」とは、日本料理のつまものとして木の葉や草花をパック詰めして出荷する事業で、約 230 種もの草木が毎日全国の市場やホテル、料亭に出荷されています。

２）「彩女会」

私たちのグループ「彩女会」は、平成 2 年 8 月から、その「彩」事業の展開と平行した形で、次世代の子供たちに残せるような文化活動や特産品作りを主な目的として活動が始まりました。

まず、最初に地元にある物を資源にした特産品づくりとして、足元にある草木を使って原色押し花や草木染めに取り組み、活動の拠点として、廃屋となっていた旧郵便局の建物を借りて「彩工房」と名づけました。

会員は 10 名で、全員押し花の講師免許も取得し、特産品作りとあわせて文化活動としても、地元の小中学生や県内各地へ講師として指導にでかけたり、年に 1 度は、徳島市内の美術館ギャラリーへ作品展示を行うなどの活動を続けてきました。

３）「森とのかかわり」

最近、活動内容はさらに広がり、地域資源として、間伐材などにも目をむけ木工クラフトやデコパージュ、トールペイント、藤かずら等のインテリア、木の実を使ったアクセサリーや木の枝を利用した木工品作り、プランター作りなど特産品開発にも取り組んでいます。

平成 7 年からは、作品展と同時に上勝町からのメッセージとして森林や山村に対する理解を得てもらおうという試みで、町内の写真展や木工クラフトの実演など都市住民との交流を通した情報の発信も始めました。

徳島県主催の「山と木と緑のフェアー」にも毎年参加して、小さな木片で動物等を作る木工クラフトや石や小枝、木の実を使った自然アートは子供たちに大変人気があり、期間中持っていった材料が不足するくらい盛況となっています。

4）「交流がもたらすもの」

こうして、いろいろな失敗や成功を繰り返しながらも、会員みんなで知恵を出し合い活動を続けてきたわけですが、展示会や講習会等の開催によって、町内外の人的交流ネットワークも広がっています。

特に、都会に住む人との交流は私たち自身も大変勉強になります。

かって私たちは、都会にはなんでもあってうらやましいと思っていましたが、生活して行く上で大切なものは、案外私たちの身近なところにあるのではないかと思うようになりました。なにげない草花や木の葉、ドングリといった四季折々の自然が実にいとおしく、毎日の暮らしが楽しくてなりません。この豊かさを都市住民の方たちにもなんとかおすそわけできたらと思います。

今までは、でかけて行くことが多かった講習会ですが、これからはどんどん上勝町に来てもらいたいと思っています。

小さなドングリを落とした大きなかしの木、やかましいほど聞こえる小鳥達の声、少しずつ変わっていく棚田の風景、そんなものを自分の目で見、手で触れ、そして感じてもらいたいのです。

5）「森の風への発展」

平成 10 年 11 月に私たちは、新たに徳島市と上勝町の中間の町に「森と都市をつなぐ交差点」として「森の風」という花とケーキを販売するお店をオープンしました。

ここでは、上勝町内でのイベントや道案内、上勝町内の花木の販売も行っています。都会の声はテレビや新聞等でたえず発信されていますが、森の声はなかなか発信されていない、そこで、極端な怒りや、切ない訴えではなく、さわやかな森の風に乗せて森に帰りたくなるような情報発信をやって行きたいというのがコンセプトです。

平成 11 年 3 月にはこの「森の風」と「彩工房」の 2 個所で、ドングリ銀行の運営もスタートさせました。当然今年の秋が銀行活動の実質的なスタートであり、どんぐり預金を集めることから、苗木づくりや植樹など、他の自然環境保全グループと連携したさまざまな行事も予定しています。

6）「私たちにできること」

たった10人の会員が、と思いながら振り返ってみれば、たくさんの人と関わり、たくさんの活動をやってきました。

何かをし始めるのは難しいような気がしますが、たった1人でも本気でやれば人の力は大きいものだとつくづく感じています。

若年令化する犯罪から、地球の環境まで様々な多くの問題が深刻化しています。

高度経済成長の中で失ってきた感性ややさしさ、思いやりといった豊かな心をもう一度とりもどすため、そして、美しく幸せな次世代のよりよい環境を創造し行動する私たちの小さな取り組みですが、大切な自然を活かし、自ら楽しみながら、地道な活動を続けて行きたいと思っています。

7）所属団体・活動の紹介

■連絡先

徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北80-4　「森の風」
（電話／ファックス）08854-2-4687

事例４　中予山岳流域の林業活性化の取り組み（愛媛県）

１）地域の概要

松山市の南に位置し、西日本の最高峰「石鎚山」をはじめとする四国山地に囲まれた山間地帯です。久万町、面河村、柳谷村、小田町の５町村で構成され、全国の山間地と同様に過疎化に歯止めはかからず、高齢化率も全国平均を大きく上回っています。地域の基幹産業は農林業であり、特に夏の冷涼な気候を利用したトマト、ピーマン、大根などの高原野菜の山地として有名です。山村の自然を生かしたいろいろな観光施設なども整備し、都市との交流も積極的に進めています。

２）地域の森林・林業

当地域は、戦後の積極的な造林事業の展開により、森林の８割がスギ・ヒノキの人工林に覆われています。県下でも有数の人工林地帯を形成し、経済林としての基礎は確立されています。木を育てる時期から、いよいよ経済的価値を発揮する収穫の時期をむかえようとしております。

しかしながら、我が国の木材自給率は年々低下し20％を割り込み、林業は極めて厳しい状況にあります。このような状況のなか、当地域の林業従事者数は25年間に半減し高齢化の一途をたどっています。

３）当地域の取り組み

林業が長期低迷するなか、地域最大の資源である木材の最大活用を図るため、流域内において原木の生産から加工・流通に至るシステムの構築を目指し取り組んでいます。さらに、この取り組みは、働く者にとって魅力に溢れた事業であり、地域林業の活性化と豊かな地域社会の構築に寄与できる、国際的な競争力を備えた総合的な林産加工産業の構築を目指しています。実現に向けた具体的方策として、

①原木の安定供給（森林施業の共同化）

②林業技術者の養成・確保

③一般材（低質材）の有効利用（大規模化によるスケールメリットの発揮、高次加工）

以上三つの柱を中心に取り組んでいます。

木材は、ご存知のとおり再生産が可能な資源です。さらに、森林は、間伐という生産行為を繰り返しながら公益的機能の発揮が維持されます。

このように、今回の取り組みは林業・地域の振興のみならず「21世紀型産業の確立」という夢をのせた事業です。

4）所属団体・活動の紹介

■連絡先

中予山岳流域林業活性化センター　TEL　0892-21-2004
FAX　0892-21-2171
E-mail　chuyo-s@mail.netwave.or.jp

■活動している場所

主に愛媛県上浮穴郡内

■活動を始めた時期と経過

時期：平成３年～

経過：平成３年の森林法の改正により「森林・林業の流域管理システム」が林政の中核となった。これを受け、当地域においてもこれまでの町村単位の林政から、流域を単位とする広域での取り組みを開始した。

■活動の目的・趣旨

農林業を基幹産業とする当地域において、地域最大の資源である木材を最大限に活用し、林業の振興はもとより、地域全体の活性化を図る。

■活動の内容

①低コスト林業、②林業担い手確保、③大規模木材加工基地整備　以上３本柱の一体的整備

■活動の課題

事業実施のための財源確保

出典：【第５回森林と市民を結ぶ全国の集い】の報告より